

ブラジルってどんなところ？ 同じところと違うところを見つけよう！

学校所在府県：京都府

学校名：京都市立新町小学校

名前：森 泰紀・全教科

実践教科：学級活動

指導時数：4時間

対象学年：新町小学校2年生

対象人数：28人（1クラス）

1. 教師海外研修を通して感じたこと

ブラジルはどの国よりも日本に近い。日本から最も遠い場所に位置するブラジルに行くには、少なくとも30時間程度かかるが、そんなことは関係ないと感じた。この近さを感じさせる理由は、日本との親密な関係性があるからだ。日系移民が世界の中で最もいるおかげで、ブラジル人は日本の文化を理解してくれており、日本人を信頼してくれている人が多い。また、日系移民の方々が作った土地が数多くある。そんなブラジルをととても好意的に感じた。そして、子どもたちにブラジルのことを伝えたいと強く思った。

2. カリキュラム

(1) 実践の目的・背景

昨年度、第一学年の頃に韓国・朝鮮についての勉強を行った。その勉強の中で、「お隣の国はどんな国？」という題材で、教材を元にして韓国・朝鮮について考え、それぞれの意見を交流し、発表があった。多くの児童が韓国・朝鮮について興味を示し、違いよりも日本との多くの共通点を発見していた。今年度は、「ブラジルってどんなところ？ 同じところと違うところを見つけよう！」と題材名を設定し、クラスの子どもたちに、去年の授業と比較しながら学んで欲しいと考えた。今回はお隣ではなく、日本から一番遠い国であるということに着目して欲しいと思う。子どもたちは、日本からとても遠い国だからこそ、日本とは違うところが多くあると考えることが予測される。しかしながら、違うことと同様に共通点もたくさんあることを子どもたちに発見してもらいたい。その結果、ブラジルはもちろんのこと、この授業を通して他の国にも興味をもってもらい、自主的に様々な国のことを調べて欲しいと考えている。

(2) 授業の構成

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1 時限目 ブラジルがどんな国が考える *ブラジルの場所を知り、その国について知りたいことを交流する。	<ul style="list-style-type: none"> ●ブラジルについて知っていることを交流する。 ●ブラジルについて知りたいことを意見交流する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●世界地図
2 時限目 ポルトガル語でコミュニケーション *クラスのみならずポルトガル語で交流をする。	<ul style="list-style-type: none"> ●ポルトガル語の挨拶を学ぶ。 ●ポルトガル語での自己紹介の仕方を学ぶ。 ●ブラジルのジャンケン「パーインジャー」を知り、遊ぶ。 ●感想を交流する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●ポルトガル語の挨拶 ●ワークシート①

3 時限目 日本にあるブラジル生 まれの食べ物を知る	<ul style="list-style-type: none"> ●一部が隠れた写真を使い、日本にあるブラジルのものを考える活動を行う。 ●感想を交流する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●カカオの写真 ●鶏肉の写真 ●ワークシート②
4 時限目 なぜピラルクがへっ ているのかを考えて、 自分たちに何ができ るのか考える	<ul style="list-style-type: none"> ●ピラルクがへっているのかを考えて、自分たちに何ができるのか考える活動を行う。 ●感想を交流する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●実寸大ピラルクの模造紙 ●自然破壊の様子の写真 ●ワークシート③

3. 授業の詳細

1 時限目：ブラジルがどんな国か考える

ねらい…ブラジルに興味・関心をもつことができるようにする。

◆内容◆

- ① ブラジルの位置を確認する。
- ② ブラジルについて知っていることを交流する。
- ③ ブラジルについて知りたいことを交流する。

！ココがポイント

指導者がブラジルに行く前に、子どもたちにブラジルのことで知りたいことを聞いた。そうすることで、児童の興味・関心が高まるようにした。

児童の感想

- ▶ ブラジルの場所を初めて知ることができた。
- ▶ ブラジルのことをもっと知りたいと思った。
- ▶ ブラジルの言葉、生き物や食べ物のことを知りたい。
- ▶ ブラジルの言葉を勉強したい。

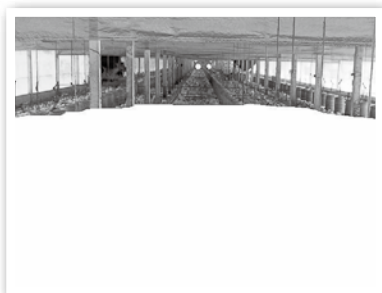
◆所感◆ ブラジルの場所を子どもたちに聞いた時、場所は知らないだろうと思っていたが、場所を知っている子どもが5人もいて驚いた。本時は、私がブラジルに行く前の授業であり、子どもたちがブラジルの何について知りたいかを調べるための授業であった。子どもたちからはたくさんの調べ物の依頼を受け、ブラジルに行く意欲が湧いた。

2 時限目：ポルトガル語で遊ぼう

ねらい…ポルトガル語で遊ぶことを通して、外国の言葉に興味・関心をもつことができるようにする。

◆内容◆

- ① 日常生活で使うポルトガル語を学ぶ。
- ② ポルトガル語での自己紹介の仕方を学び、クラスと友達とポルトガル語で自己紹介をし合う。
- ③ ブラジルのジャンケン「パーインジャー」を知り、クラスの友達と活動を行う。
- ④ 感想を書いて、クラスの友達と交流する。



鳥が飼育されている場所の
写真の一部を消したもの



鳥が飼育されている場所の写真



鶏肉の名前が書いてある場所を
消した写真



鶏肉の写真

日本とブラジル ～同じとちがい～ _____ 班

たべもの①はなんだ？
ヒントのしゃしんをよく見よう！

こたえ _____

たべもの②はなんだ？
ヒントのしゃしんをよく見よう！

こたえ _____

できたかな？

ワークシート②

② 感想を交流する。

！ココがポイント

ブラジルからの輸出品であるカカオや鶏肉の写真を提示する。その写真の一部は隠されており、隠れている物が何かを周りの写真から推測していくのを楽しむといった活動を行った。

児童の感想

- ▶ 写真を使って考えていくのがとてもおもしろかった。
- ▶ 最初は写真に何が隠されているのかが全く分からなかったけど、写真をよく見たり、友達と相談したりすると答えが分かってうれしかった。
- ▶ ブラジルからチョコの材料のカカオや鶏肉が来ているのを知って驚いた。

◆所感◆ 今回の授業は主にクイズ形式で行った。写真の周りの状況をしっかりと把握することで、ブラジルから日本に輸出されている物がわかるというものだった。クイズということもあり、子どもたちは楽しそうに授業を行っていた。クイズを解いていく中で、子どもたちはブラジルのものが日本に来ていることに驚くと同時に、スーパーの中にフィリピン産のバナナやコロンビア産のコーヒーのことを思い出している児童もいた。また少しずつ外国に目を向けることができるようになったのではないかと感じた。

4 時限目：なぜピラルクがへっているのかを考えて、自分たちに何ができるのか考えよう

ねらい…なぜピラルクがへっているのかを考えて、自分たちに何ができるのか考える。

◆内容◆

① ピラルクがへっているのかを考えて、自分たちに何ができるのか考える活動を行う。

「おー！」という
驚きの声があった。



実寸大ピラルクを子どもたちが見ている写真

この写真を見てピラルクが
減っている原因を考えた。



環境破壊が進行している写真



子どもたちが一生懸命ピラルクが減っている原因を話し合っている。

なぜ、ピラルクがへっているか考えよう！！



() はん

★どうしてピラルクがへっているのかな？
そうだんして 思いついた りゆうを書いてみよう！

.....

.....

.....

.....

Q

なぜ、ピラルクがへっているか考えよう！！



() はん

★どうしてピラルクがへっているのかな？
そうだんして 思いついた りゆうを書いてみよう！

.....

.....

.....

.....

Q

ワークシート③



ピラルクが減っている理由を児童が話している様子。

② 感想を交流する。

！ココがポイント

実寸大の模造紙ピラルクを見せることによって、ピラルクがどれくらい珍しい生き物かを理解できるようにする。そして、そのピラルクが絶滅しようとしている原因が自分たちにもあることを伝え、自分たちに何ができることを真剣に考えることができるようにした。

児童の感想

- ▶ あんなに大きい魚がいることに本当に驚いた。
- ▶ 自分たちが木や紙を使いすぎるからピラルクが少なくなっていることを知って驚いた。これからは、できるだけ紙を無駄遣いしないようにしていきたい。
- ▶ 自分たちは紙を本当にたくさん使っているのだから、できるだけ紙を使わないようにしたい。

◆所感◆ 実寸大の模造紙ピラルクを用意したことによって、ピラルクの大きさや珍しさに子どもたちはびっくりしていた。そのおかげでピラルクを減らさないために自分に何ができるかを真剣に考えていた。授業後は紙を使用するときに驚くほど無駄がないように紙を使うようになった。ピラルクのことを通して子どもたちの行動に変容があったのが大きな成果だと感じた。

4. 成果

今回の全ての授業を子どもたちは積極的に学んでいた。それは、ブラジルのすべてのものが子どもたちにとって目新しかったからだと感じる。ノートを書くようには言っていなかったにも関わらず、自由帳に授業内容を書く児童がたくさんいたくらいだ。今回の授業で、子どもたちの生活が自分の身の回りだけではなく、外国にまで影響を及ぼしていることを知らせることができた。ピラルクの減っている原因の一つが自分たちが紙を使いすぎることだと子どもたちは知り、大きな衝撃を受けていた。その授業後、子どもたちは紙をととても大切にするようになった。「ピラルクのために、紙の裏も使わなきゃ。」と多くの児童が言う。今回の授業を通して、子どもたちの行動が変わったことが成果の一つだと思う。また、ブラジルだけではなく、他の国にも興味を持つ児童が増えてきた。「私はこの国にいつか行ってみたい!」という言葉をよく聞くようになった。これからも、子どもたちに海外のことを意識して過ごしてほしいと思う。

5. 課題

今回は単にブラジルのことを知るのではなく、自分たちが住んでいる日本のことと比較をして授業を行ってきた。ブラジルのことを知るだけでも楽しそうに授業を受けていたが、そこから日本のことと比較をすることによって、日本との違いや同じことを発見して驚く姿があった。その一方で、2年生ということもあり、ブラジルのことを知るだけで精一杯で、「日本と比較する」ということが難しかった児童がいた。今回のような内容を伝えるのならば、児童がさらに容易に理解できる支援が必要だったと感じた。